

令和 7 年度 県立麻生高等学校自己評価表

目指す学校像	確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と常に変化する社会に対応できる能力と創造力を養うとともに、生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程により、国公立大学進学、公務員内定などを目標に捉えた進路希望の実現を目指す。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	意欲を持って学習や学校生活に取り組み、主体性や社会性を身につけ、社会のリーダーとして貢献できる人材の育成 ・至誠勤勉：何事にも誠実に一生懸命取り組むことができる ・自治剛健：強い心を持ち、物事を自らの意志により実行することができる ・和衷協同：目標達成のために、仲間を認め協力し合うことができる	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程により、国公立大学進学、公務員内定などを目標に捉えた進路希望の実現 ・ICT教育を積極的に推進し、学習指導の充実に努め、生徒一人ひとりの確かな学力を育む。 ・探究活動の充実に努め、課題解決に対応できる資質や能力を育成する。 ・健康と安全に留意し、強健な体と不屈の精神を育てるとともに豊かな人間性を培う。 ・地域とともにある学校として、行政や小・中学校と連携し、特色ある学校づくりを推進する。 ・学校教育活動全体の業務を精査し、教職員自らが適正な時間内で働くことのできる環境作りに努める。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	規範意識を高く持って日常生活を送るとともに、学習活動のみならず、学校行事、生徒会活動、部活動などにも積極的に取り組む意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・昨年度の授業評価アンケート（５段階）によると、【授業満足度（思考力・判断力・表現力等の向上）】と【Teaching（教え方の工夫）】で学校全体の評価平均が3.4、【知識・技能の向上】、【Coaching（適切なアドバイス・疑問に適切に応じる）】で【Teaching（適切な目標や課題の設定）】では3.5となっている。【効果的にICT機器を使用する授業改善（学校独自項目）】では評価平均が3.4となっており、教科の取り組みを中心に継続的に授業改善を模索していく余地がある。 ・教員間で相互授業参観等を行い、分かりやすい授業に努め、生徒の学習意欲の向上につながる取り組みを協議し、実践していく必要がある。 ・進学率77.5%（大学44.4%、短大2.0%、専修31.1%）で、大学進学者の割合が増加し、専修	I ICT教育を積極的に推進し、学習指導の充実に努め、生徒一人ひとりの確かな学力を育む。	① 授業交換の徹底及び終始時刻の厳守により、授業時間の確保と適切な指導の強化を図る。 ② 日々の授業の他、ブライタイムや補習等を通して基礎的・基本的な知識や技能の習得に努めるとともに、これからの時代に求められる読解力や思考力・判断力・表現力を養い、確かな学力の定着を図る。 ③ 生徒一人ひとりの能力・適性・進路希望等に対応して、個に応じた指導の充実に努める。 ④ 家庭学習の習慣化を図るために、週末課題等を通して各教科で連携し、学習指導の工夫・改善に努める。 ⑤ 生徒の確かな学力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を推進するとともに、教科内で授業参観を積極的に行うなど、授業の質の向上を図る。生徒による授業評価において、授業満足度の平均値3.6以上を目指す。	A

別紙様式 2 (高)

<p>学校への進学者はやや減少した。生徒、保護者とも進学意欲が高まっていることと、将来への漠然とした不安が進学への意識を高める要因となっている。私立大学総合型選抜合格者が 22 名（昨年度 10 名）、指定校・公募推薦 40 名（昨年度 49 名）、一般合格総数が国公立も含めて 23 名（昨年は 9 名）である。生徒の能力や適性に合わせて多様な入試方式を選択するようになってきている。第一志望をあきらめず一般選抜まで受験を続ける傾向は続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短大・専修学校希望者は全員が合格し、概ね希望する進学先を実現することができた。専修学校は 53%が総合型選抜で進学し、進学先決定の早期化が年々進んでいる。 ・就職希望者は 16.8%（昨年 12.6%）で例年より増加した。企業 28 名、公務員 5 名が内定し、内定率 100%を達成できた。求人状況は好転しているが、一人二社受験の開始など、事務手続きの変化に対応しながら、生徒の進路希望に合わせた指導を行っていく必要がある。 ・進学就職を問わず、基礎学力の定着と適切な読解力や表現力の涵養を図る必要がある。 ・共通テストをはじめ、新教育課程対応入試に関するさまざまな変更点への校内での対応を適切に進める。 ・生徒の進路意識・自己実現への高い意欲を喚起するため、進路指導部と各学年で協力して計画的にガイダンスや講話等の手立てを実践し、早期に進路目標を確立できるように指導を行う。 ・生徒の規範意識が高く、学校全体に学ぶ場としてふさわしい落ち着いた雰囲気が形成され、安心安全な学校が確立している。しかし、校外において自律心に欠ける行動が時折見られる。 ・交通ルール及び交通マナーの遵守に不徹底が 	<p>II 探究活動の充実を図り、課題解決に対応できる資質や能力を育成する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 ② 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。 ③ 各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにする。 ④ 研究活動における情報の収集・整理・分析・発信を通して、情報活用能力を育成する。 ⑤ 広い視野から郷土・国家、国際社会を理解する教育を推進し、グローバルな視野を持ち、地域に貢献する意欲を持った人材（グローバル人材）の育成を図る。 	<p>A</p>
This cell content is merged into the left cell above for brevity, as the content is identical	<p>III 健康と安全に留意し、強健な体と不屈の精神を育てるとともに豊かな人間性を培う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校教育活動全体を通して体育・スポーツ活動を充実することで体力の向上を図るとともに、変化の激しい時代を生き抜くために必要な強い精神力を涵養する。 ② 学校教育活動の一環として望ましい部活動の充実に努め、生徒の基礎体力を錬成する。 ③ 学校保健教育を充実し、健康の保持増進のための自己管理能力を育てる。 ④ 全職員の共通理解と協力の下、家庭、関係機関、諸団体との連携を密にして、生徒一人ひとりをよく理解し、個々に応じた生徒指導の充実を図る。 ⑤ 指導が必要と認められる状況においても、決して体罰（暴言を含む）によることなく、生徒の規範式や社会性の育成を図るよう、適切に指導する。 ⑥ 全ての生徒がいじめを行わず、また、いじめを認識しながらこれを放置することがないように、いじめの防止のための対策を講じ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を心掛ける。 ⑦ 情操を高める学習環境を目指し、清掃の徹底と美化に努める。 ⑧ 学校環境の安全点検を強化するとともに、安全教育を実施し、事故の未然防止に努める、特に、スクールバスによる通学の利便性を図るとともに、交通安全の指導を充実して交通事故の撲滅を目指す。 	<p>B</p>

別紙様式 2 (高)

<p>見られ、登下校時に事故が発生している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護された状況からの自立を促すこと、保護者や地域との連携を密にし、校外での指導体制を確立することが必要。 ・LHR、SHR 及び学年集会、交通講話等において、交通事故、未然防止のための交通安全指導を行う。 ・生徒会を中心に意欲的に学校行事に取り組む姿勢が見られるが、教員のサポートが必要である。 ・部活動は活発に行われており、生徒の心身の成長につながっているが、近年部活動加入率が減少傾向にある。 ・昨年度、生徒会主催以外のボランティア活動に参加した生徒は、延べ人数で約 60 名である。 ・生徒による自発的で計画的な取り組みを促進する。 ・特色選抜に関することの見直しも必要である。 ・ボランティア活動等、社会的な活動への積極的な参加を促進する。 ・令和 6 年度の時間外在校等時間における「月平均時間」は 24 時間 17 分、「月平均 45 時間超過者割合」は 14.4% (5 名)、「月平均 80 時間超過者割合」は 0.3% (1 名)であった。 ・業務の効率化や会議等の簡略化などを通して、勤務時間内の業務遂行に努めている。 ・管理職との面談を通して時間外勤務の改善を図っている。 ・勤務時間を意識した働き方を教職員一人ひとりに浸透させること。 ・業務内容の見直しや優先順位づけ、教材の共有化、職員会議等の効率化、資料の工夫等、時間の有効活用を図ること。 	<p>IV 地域とともにある学校として、行政や小・中学校と連携し、特色ある学校づくりを推進する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域の人的・物的資源を活用し、家庭・地域と協働した特色ある学校づくりを推進する。 ② 地域の小中学校との連携と協働を進め、地域の小・中学生から選ばれる学校づくりに努める。 	<p>A</p>
<p>見られ、登下校時に事故が発生している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護された状況からの自立を促すこと、保護者や地域との連携を密にし、校外での指導体制を確立することが必要。 ・LHR、SHR 及び学年集会、交通講話等において、交通事故、未然防止のための交通安全指導を行う。 ・生徒会を中心に意欲的に学校行事に取り組む姿勢が見られるが、教員のサポートが必要である。 ・部活動は活発に行われており、生徒の心身の成長につながっているが、近年部活動加入率が減少傾向にある。 ・昨年度、生徒会主催以外のボランティア活動に参加した生徒は、延べ人数で約 60 名である。 ・生徒による自発的で計画的な取り組みを促進する。 ・特色選抜に関することの見直しも必要である。 ・ボランティア活動等、社会的な活動への積極的な参加を促進する。 ・令和 6 年度の時間外在校等時間における「月平均時間」は 24 時間 17 分、「月平均 45 時間超過者割合」は 14.4% (5 名)、「月平均 80 時間超過者割合」は 0.3% (1 名)であった。 ・業務の効率化や会議等の簡略化などを通して、勤務時間内の業務遂行に努めている。 ・管理職との面談を通して時間外勤務の改善を図っている。 ・勤務時間を意識した働き方を教職員一人ひとりに浸透させること。 ・業務内容の見直しや優先順位づけ、教材の共有化、職員会議等の効率化、資料の工夫等、時間の有効活用を図ること。 	<p>V 学校教育活動全体の業務を精査し、教職員自らが適正な時間内で働くことのできる環境作りに努める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校行事や部活動、学校運営等の見直しを図り、適正な時間内で業務運営に努める。 ② 勤怠管理システムによる勤務時間の管理を図り、超過勤務時間の削減に努める。 ③ 職員室等の整理整頓を推進し、働きやすく効率の良い職場環境づくりをする。 	<p>A</p>

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科 国語	基礎学力の向上	漢字・語彙などの学習の基礎基本となる内容について、小テストを実施する。 I ②③	A	B ・課題の提出状況、小テストの結果ともに目標に達せず、更なる家庭学習習慣の定着が必要である。次年度は生徒実態に鑑み、能力向上を目指した指導方法を改善していきたい。
	家庭学習の充実と習慣化 家庭学習の充実と習慣化	課題を提示し、家庭学習の習慣を定着させる。(提出率 90%以上) 定期考査や模試結果を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を支援する。 I ①②③④	B	
	希望進路実現に向けた国語力の伸長	授業・定期考査・各種模試結果を分析し、指導方法を研究する。授業・課外・課題(自学)により生徒の総合的な学力と論理的思考力、表現力の向上を図る。 I ②③④⑤ II ④	B	
地理 ・ 歴史	基礎知識の習得と思考力の研 磨を図る	生徒の確かな学力を育成するために ICT を活用しつつ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教員間の連携を深め、教員相互の授業改善の推進を図る。 I ①③⑤	B	A ・課外のあり方の検討。 ・教科横断的な学習の模索。 ・生徒主体的な学びのための ICR 活用。
		単元テストの実施や定期的に基礎学力を補完する課題を提供するなど、家庭学習の充実に努める。 I ④	A	
	探究活動の充実をはかり、課題 解決に対応できる資質や能力 を育成する。	歴史学習など先人に学ぶ活動を通して、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 II ①	A	
		租税教室などを通じて、社会の仕組みを理解させ、また実社会でも応用できる知識や技能を習得させる。 II ②	A	
数学	基礎学力の向上	教科書・問題集の基本問題を繰り返し解くことによって、基礎学力・基本的な知識や技能の確実な定着を図る。 I ①③	A	A ・主体的・対話的な学習活動の徹底 ・自主学習の習慣化の徹底
	論理的に思考・判断・表現する 力の育成	授業で ICT を活用するなどして主体的・対話的な学習活動を行うことで、従来の授業形態の改善を図り、教科書・問題集の応用問題を解いたりすることによって、論理的に考え、グループ活動を通して、理由を付けて説明することができる能力を育成する。 I ② II ④	A	
	自主学習の習慣化	週末課題を課すことによって、自主的な学習の習慣化を図る。 I ②④	A	
理科	基礎学力の向上	生徒の実態に合わせて中学校での既習事項を踏まえつつ指導にあたる。また、問題演習を繰り返し行うことによって、基礎的な学力の定着を図る。 I ①②④	A	B ・課外では、入試問題演習を行い、個に応じて指導することができた。 ・探究活動では、実験を取り入れたプログラムを実践することができた。 ・次年度は単元ごとに有効な実験の方法を模索していく。実験を取り入れる授業を増やし、生徒の技能の向上に努めていきたい。また、教科書と併用して効果的に ICT を活用していきたい。
		多様な進路希望の生徒に対応できるよう、課外授業や問題演習など個に応じた指導を充実させ、学力の向上を図る。 I ③	A	
	生きる力を支える確かな学力 の育成	実験・観察により技能を習得させながら、事象を実証的・論理的に考え、事実に基づいて判断し、表現する力を培う。 II ③④	B	
		ICT を積極的に利用し、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、生徒の能動的な学習をサポートする。 I ⑤	B	
	自然の事物・現象を科学的に探 究する資質能力の育成	総合的な探究の時間等を有効に活用し、実験実習を取り入れた探究活動を実施する。 II ③④	A	
生徒自身が調べるテーマを選択し、理科で学んだ科学現象を用いながらそれらの現象・事象が起こる理由を考え、科学的なものの見方・考え方を育成する。 II ①②		B		

別紙様式 2 (高)

保健 体育	運動技能を高めて生涯にわたり運動に親しむ資質や能力の育成	球技：基本技能を身に付け、自他協力により安全にゲームが展開できるようにさせる。Ⅰ②	A	A	・ICT を活用しての授業内課題や振り返り学習を実施できた。学習時間と課題に取り組む時間のバランスが今後の課題である。
		集団行動：公正・協力・責任の態度を育てる。Ⅰ⑤	A		
		選択授業の展開：多様なスポーツとの関わりからそれぞれの生涯スポーツを獲得する。Ⅰ③	B		
	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成	日常生活から健康問題を考える意識を持たせる。Ⅲ③	A		
		健康的な生活習慣を身につけ、生活環境を守るための知識と能力を高める。Ⅰ②	A		
芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	実践的・体験的な諸活動を通し、自己肯定感を高め、芸術を愛好する心情を育てる。Ⅰ③Ⅱ③⑤	A	A	・生徒の実態・人数に応じた課題の設定、教材の確保。 ・授業で制作した作品や発表機会の充実。
	芸術の諸能力の伸長及び豊かな情操の養成	生徒の実態に寄り添い、基礎の確実な定着と技術の向上を図る。Ⅰ②③⑤	B		
		芸術の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした表現ができるような機会を充実させ、互いに認め合い学び合う授業を展開する。Ⅱ①②	A		
外国語	基礎学力の向上と家庭学習の習慣化	小テストを継続的に行い、基礎学力の向上につなげる。Ⅰ②③	A	A	・学力差が広がらないよう基礎学力の定着を継続的に行う。 ・ICT 教材の活用を推進する。
		予習復習や定期的な課題等を課して、家庭学習を定着させる。Ⅰ③④	A		
	授業の創意工夫	ALT とのチームティーチングの授業を通してコミュニケーション活動の充実を図る。Ⅰ⑤	A		
		意欲・関心を高め、豊かな人間性を培えるような教材を精選する。Ⅰ②③	A		
		授業内容・教授法・提出物管理等について ICT 機器の使用法を共有し活用していく。Ⅰ⑤Ⅱ④	A		
家庭	基本的な生活力の向上	ICT 機器を効果的に活用し生徒の実態に応じた教材を取り入れることによって、基礎的・基本的な知識・技能の習得をはかる。Ⅰ②Ⅱ③	A	A	・生徒の興味関心を高める視覚に訴える教材を用いることによって基礎的な知識の定着をはかった。 ・実習教諭と協力して安全な実習に努めた。 ・知識・理解とグループワークのバランスの検討が必要。
	課題解決能力の育成	日常生活の充実向上について考え、課題を見だし、改善・解決を目指す態度を育成する。Ⅱ①②③	B		
	学習環境の整備と事故防止の推進	実験実習時の衛生・安全に配慮させる。実習室の整備・安全管理に努めて事故防止をはかる。Ⅱ③	A		
情報	P C 技能の向上	「ライフイズテックレッスン」を活用することによって主体的に学習する態度を身につけ、実習を通して文書作成及び表計算処理の技能の向上と Python を用いたプログラミング技術の取得を目指す。Ⅰ③Ⅱ⑤	B	B	・情報モラルの理解と実践を徹底し、生徒達が被害者や加害者になるような SNS での事件が発生しないようにする。
	コミュニケーション能力の向上	プレゼンテーションを行い、情報伝達能力の向上に努める。Ⅱ④Ⅳ①	B		
		電子メールや SNS の使用方法や注意事項を理解し、情報の受発信の技能を習得する。Ⅰ③	B		
情報モラルの理解と実践	著作権の尊重・情報発信者の責任など、守るべき規則及びその背景について考えることにより、情報モラルの理解と実践を図る。Ⅱ④	B			

別紙様式 2 (高)

教務	授業時間の確保	授業開始、終了時刻を厳守する。 I ①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ R9 年度入学生用教育課程の検討 ・ 行方市との連携による広報活動の充実（なめテレへの出演や動画配信等） ・ 図書室の利用促進（今年度は長寿命化こうじによる利用不可状態でスタートしたので徹底できなかった） ・ zoom 配信や遠隔授業のための使用機器の準備と管理
		授業交換は単独授業では 100%実施し、同時展開の授業でも出来るだけ実施する。 I ①	A		
	カリキュラムマネジメントに基づく教育課程の編成・実践	現教育課程が生徒の実態に適しているか検討する。 I ②⑤ II ⑤	A		
		教科のグランドデザインに即した資質・能力の育成を図る。 I ②③④⑤ II ③④	B		
	指導方法の研究・改善	新たな観点別評価の徹底を図る。 I ②③⑤	A		
		生徒が主体的・対話的に学ぶ授業の指導方法について研究し、授業改善に努める。 I ⑤	B		
		授業参観・職員研修の実施や教科横断的な授業に取り組み、質の向上を図る。 I ②⑤ II ③④	B		
	図書室の利用と読書指導の推進	広報活動を行い、図書室の利用促進および一人一人の読書量の増大に繋げる。 II ⑤	B		
	情報及び情報機器の管理	所有するハードウェア・ソフトウェア、およびデータの管理に加え、USB と PC 本体等の管理（帰宅時）を厳に行う。 II ④ V ③	A		
		ICT 係を中心として、ICT 支援員と連携し、授業や業務の改善を図る。 I ⑤ II ④ V ③	A		
広報活動の充実	ホームページを継続的に充実させ、本校の教育活動を積極的に広報・発信する。 V ②	A			
生徒支援	基本的生活習慣の確立	おはよう運動（登校指導）を通じて、挨拶の励行を図るとともに遅刻防止に努める。 III ①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の落ち着いた生活態度の継続を図る。 ・ 生徒のマナー、エチケット等の指導を継続し、身だしなみの徹底を図る。 ・ より元気な挨拶の実施に向けた支援に努める。
		全職員がチャイムで始まりチャイムで終わる授業を実践することで、生徒の時間厳守の行動を養う。 I ①	A		
	生徒理解 基本的生活習慣の確立	学校生活全般において生徒一人ひとりをよく理解し、適切な信頼関係を築く。適宜、個人面談・教育相談等を行う。 III ⑦	A		
	体罰によらない指導の徹底	指導が必要な状況においても、決して体罰によることなく、適切に指導する。 III ②	A		
	服装頭髪指導の徹底	全職員の共通理解の下、おはよう運動及び毎月服装頭髪指導を実施する。 III ①	A		
	規範意識の高揚	全校集会・学年集会・LHR・授業等を活用し、社会規範意識の高揚に努める。 III ⑧	A		
	いじめを許さない学校づくりの推進	休み時間や昼休みに教室巡回を行うなどして、生徒観察に努め、いじめの未然防止に努める。 III ③	A		
	交通安全教育の徹底	校外での交通指導を隔月 1 回実施するとともに、交通講話・バイク通学許可説明会・教習所入所説明会・バイク実技講習会等を通じて、交通法規の遵守及び交通安全の意識の高揚を図る。 IV ⑤	A		
		交通法規の遵守について、全校集会・学年集会・LHR を活用し、継続的な指導を行う。 IV ⑤	A		
教室環境整備の徹底	掲示の工夫や放課後の教室の整理整頓、学ぶ場としてふさわしい教室環境の整備を徹底する。 IV ④	B			

別紙様式 2 (高)

進路指導	進学指導体制の充実	生徒一人一人、個々に応じた進路指導・進路実現の支援体制の充実を図り、生徒全員の希望進路実現率 100%を目指す。 I ②③	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課外の日程については、長期休業中の課外を含め、検討を続ける必要がある。 ・進路に関する行事の量や質は適切か検討を続ける必要がある。 ・
	課外授業の充実	平常課外、長期休業中の課外の充実を図り、学習習慣と学力向上を目指す。 I ③④	A		
	進路講演会等の実施と進路意識の高揚	進路講演会等を通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。 II ②③	A		
		HR・総合的な探究の時間等を利用し、自己理解、職業・学部学科研究を行い、自己実現に向けた進路意識の高揚を図る。 II ①④	A		
	進路指導内容・環境の充実	教員全員体制での面接指導により、面接試験に柔軟に対応できるように多面的な視点からの指導を行う。 I ①②③	A		
		進路希望に応じた校外模擬試験を計画的に実施し、その結果を振り返りながら定期考査を含めて達成状況に応じた次の指導に活かす。 II ②③	A		
		茨城大学の大学説明会や外部での進路ガイダンスに積極的に参加させ、志望校決定の一助とする。 II ①④	A		
ICT を活用して、精選した最新の進路情報を提供し、進路実現に向けて適切に活用できるよう、指導を行う。 I ③		A			
	3 年にわたる系統的かつ具体的な進路指導計画を策定する。 II ①②③	A			
特別活動	社会性・人間性を高める活動への参加支援	社会奉仕体験活動への参加を促し、地域社会との交流を図る。 IV ①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる生徒自身の主体性の向上を目指す ・部活動加入率の向上を目指す
		生徒自らが様々な探究活動に取り組み、主体性を持ったリーダー育成を図る。 II ①②	A		
	人間的触れ合いを基盤とした自主的・自治的活動の推進	ホームルームや生徒会活動を通して、自主的・自治的活動の活性化を図る。 II ①②	B		
		球技大会や文化祭を通して、生徒同士の触れ合いを図る。 III ①	A		
	委員会活動の活性化	委員会活動を通して、健全な精神的成長を図る。 II ①②	B		
		生徒の自主的・自発的な活動を支援する。 II ①②	B		
部活動の適正な運営および効率的・効果的な活動の推進	生徒自らによる主体的な活動の構築を目指す。 III ①②③	B			
	適切な休養を確保するため、活動時間を管理する。 V ①	A			
保健安全	健康の把握と増進	性に関する講演会など、専門家による健康教育を実施する。 IV ①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの地域との連携
		定期健康検診の全員実施に努める。 III ③	A		
	安全教育の推進	防災訓練を実施し防災意識の高揚を図る。安全点検の実施で校内の危険予防を図る。 III ⑧	A		
		教職員向け A E D 講習会を実施し、緊急時に備える。 III ⑧	A		
	環境整備美化の推進	毎日の清掃指導の徹底やワックスがけの実施で校内美化に努める。 III ⑦	A		
清掃用具の点検・整備を定期的に行い、清掃活動の充実を図る。 III ⑦		A			

別紙様式 2 (高)

渉外	後援会活動の充実	役員と職員との連携を深め、総会などの事業について最善の形態を模索し、活性化が図れるよう努める。 Ⅲ①Ⅴ①③	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン総会やデジタル資料配布など新しい形態を検討する。 ・ボランティアを募集するなどの企画を検討する。 ・市バスの路線廃止（1路線）について対応する。
	保護者・地域との連携強化	建友玉藻会植花活動に生徒会の参加を検討する。 Ⅳ①	A		
		あいさつ運動など保護者と職員が一緒に活動できる機会をつくる。 Ⅴ①	A		
生徒の通学や学習環境の充実	後援会が関わるスクールバスや空調設備などについて、適正で円滑な活用に努める。 Ⅲ⑧Ⅳ①	A			
1 学年	目的意識を持った学校生活の確立	全生徒に部活動や課外授業への積極的参加を推奨する。 Ⅰ②Ⅳ②	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識や服装指導の徹底 ・毎日の家庭学習の習慣をしっかりと身に付けさせる。 ・資格取得に積極的に取り組ませる。
		高校生活で力をいれるものを見つけ、充実した高校生活を送る。 Ⅱ①③	B		
	基本的な生活習慣の確立	規範意識を高め、身だしなみを整える。 Ⅲ④⑤	B		
		挨拶を励行し、時間の厳守に努め、清掃を徹底する。 Ⅲ⑦	A		
	進路目標の早期明確化	自己理解や職業理解を深め、具体的な進路目標を持てるようにする。 Ⅱ①②	A		
		探求学習を通して、自らの進路に向けた課題を発見する。 Ⅱ①②	B		
基礎学力の定着と進路を見据えた学習指導の充実	ICTを活用した課題を提示することにより家庭学習（120分以上）を充実させる。 Ⅰ④	A			
	英検・漢検・数検等の資格取得を推進するとともに、主体的、対話的な授業に取り組ませる。 Ⅰ②⑤	A			
2 学年	目的意識を持った高校生活の確立	総合的な探究の時間や部活動、また課外授業やボランティア活動への主体的な取り組みを奨励し、年間を通じて継続させる。 Ⅰ②Ⅴ③Ⅲ②Ⅳ①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識をさらに高められるよう、生徒の小さな変化にも目を向け、個に応じた支援を心掛ける。 ・志望進路についての目標を具体化し、受験に向けて計画的に準備をさせる。
		学校行事等への積極的な参加を促す。 Ⅲ①	A		
	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行、時間の厳守、清掃の徹底を図る。 Ⅲ①⑦	B		
		規範意識を高め、身だしなみを整えさせる。 Ⅲ③⑤⑥	B		
	具体的な進路を見据えた学習	ICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努め、学力向上を図る。 Ⅰ③Ⅱ①④	B		
		週末課題やブライトタイムを活用し、基礎学力と家庭学習習慣の定着を図る。 Ⅰ②Ⅱ③	B		
積極的に情報収集を行わせ、志望進路を早期に明確化させる。 Ⅰ③Ⅱ②④		A			
英検・漢検等の資格取得を推進する。 Ⅰ②④	A				
3 学年	希望進路実現のための支援	個別面談を充実させ、個に応じた学習・生活、進路実現のための支援を行う。 Ⅰ③Ⅱ①②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに対して、きめ細やかな対応をすることができた。 ・実力不足で入試に臨む生徒に対して、様々な角度からのアプローチが必要であった。 ・各種模試分析を的確にフィードバックしつつ、進路実現に繋げたい。 ・体調管理の重要性を伝えていく。
		進路別各種説明会、公務員講座、看護ガイダンス等を活用し、具体的進路実現に対する意識の向上を図る。 Ⅱ①②③④	B		
	多様な進路に対応した学力の向上	模擬試験の活用の他、課外授業、ブライトタイムを充実させ、多様な入試形態に対応できる素地となる学力を育成する。 Ⅰ②③④⑤	B		
		公務員模試、就職模試、看護模試等の活用により、多様な進路に適應できる基礎学力の定着を図る。 Ⅰ③Ⅱ①②	A		
	基本的な生活習慣の確立	頭髪服装指導を中心に、進学、就職を見据えての規範やマナー意識の向上に努める。 Ⅲ⑤⑦	A		
		個別面談や被害調査、心と体の調査を活用し、各関係校務分掌と連携しながら、いじめや問題行動の未然防止に努める。 Ⅲ④⑤⑥	A		

別紙様式2 (高)

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない